

総合文化センター等跡地活用事業 基本計画【概要版】

第1章 基本計画策定の背景

○ 稲沢市都市計画マスタープラン(第3次)(令和2年3月策定)

地域のまちづくり目標(抜粋)

■小正地域

- 公共交通の利便性を生かした、若者にも魅力的な新たな住宅地形成を図るまちづくり
- 尾張大國霊神社(国府宮)を生かし、**多くの観光客が歴史・文化を楽しめるまちづくり**
- 閑静な住宅街で今後も落ち着いた暮らしができるまちづくり

■稲沢地域

- 名鉄国府宮駅周辺において**日常生活を支える多様な都市機能が集積するまちづくり**
- 公共交通の利便性を生かした、若者にも魅力的な新たな住宅地を形成するまちづくり
- 豊かな自然や歴史を感じる住宅地を形成するまちづくり

第2章 現状整理

対象地の現状

- 名鉄国府宮駅まで約 300m、JR稲沢駅まで約 1.4km の距離にあり、**交通利便性の高い地域**。
- 跡地の西側は、**多数の参拝者が訪れる尾張大國霊神社(国府宮)の参道**に面し、周辺は閑静な住宅街が広がっている。
- 跡地の南側には、中大通線(市道)、大江川を挟んで、市立稲沢中学校がある。



第3章 コンセプト

○ コンセプト

むすぶ・つながる・ひろがる
新たないなざわ暮らし

○ 施設整備方針

- 尾張大國霊神社(国府宮)をはじめとした観光資源を情報発信できる場所を整備します。
- 誰もが利用しやすく、多目的に活動できる場所を整備します。
- 気軽に集い、心地よく過ごせる場所を整備します。
- 文化活動の発表や鑑賞ができる場所を整備します。
- 安全性と心地よさを兼ね備え、長く安心して暮らせる場所を整備します。

第4章 導入機能

新施設は、行政機能をはじめ、市民が旧施設で長年利用してきた機能であるホールや会議室を含む貸館機能、防災機能を引き継ぎます。そして、コンセプトの「むすぶ・つながる・ひろがる」を実現するために、**地域交流機能を核としながら、新たに、展示機能、観光機能、居住機能、保育・子育て支援機能、健康増進機能を導入する施設**とします。



第5章 施設規模

1. 公共施設の規模

公共施設の規模は、**市民へのサービス向上**を目的に各公共機能の役割を果たし、それぞれ適切な運用が可能な規模を検討します。旧施設の各諸室面積や関係部署からの要望等を踏まえて、**新施設の公共施設部分の面積は合計 1,500 m²程度**として整理します。なお、詳細な計画や計画及び規模設定については、基本設計時に精査していきます。

新施設に必要な諸室	機能	規模
小正市民センター・	行政機能	30 m ²
更生保護サポートセンター	行政機能	15 m ²
公共ロビー・展示スペース	市民交流機能、展示機能	250 m ²
観光案内所	観光機能	30 m ²
ホール(ステージ付)	貸館機能	280 m ²
会議室・講習室・和室	市民交流機能、貸館機能、健康増進機能	255 m ²
保育・子育て支援スペース	保育・子育て支援	230 m ²
防災倉庫	防災機能	50 m ²
小計		1,140 m ²
合計(廊下等共用部含む)		約 1,500 m ²

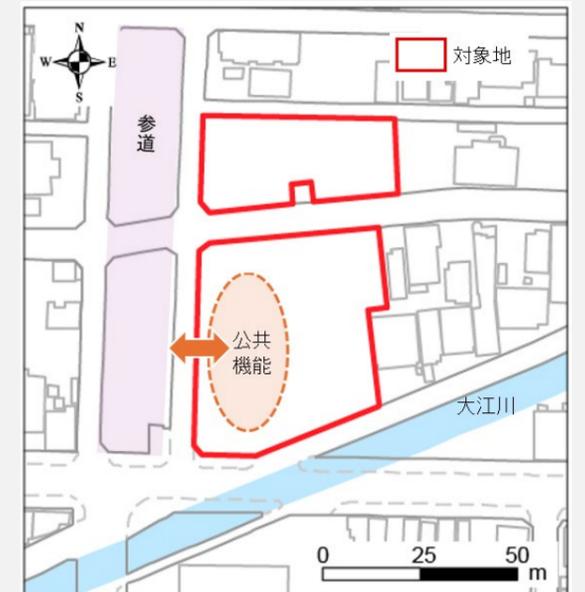
2. 民間施設の規模

新施設における公共機能の導入とともに、**同敷地内に民間機能整備を検討**しています。民間機能については、上位関連計画において対象地を含む名鉄国府宮駅周辺に期待される**まちなか居住を推進する居住機能**を条件に、公共施設の利用者やマンション居住者、さらに名鉄国府宮駅利用者に向けて**生活利便性向上のためのサービス導入を期待**します。新施設に必要な民間機能の規模について、**立地特性や周辺マンション等を鑑み、民間提案に委ねる**こととします。なお、公共施設との連携やマンション居住者への配慮を踏まえた詳細な計画及び規模設定については、基本設計時に精査していきます。

第6章 施設配置の考え方

周辺環境との関係性

新施設への来訪者の動線について、市内で最も乗車人員数が多い名鉄国府宮駅や観光目的地となる尾張大國霊神社(国府宮)が立地している**敷地西側からの動線を想定**しています。過去に**対象敷地南側に市役所があった歴史的背景**及びより多くの人の目に触れる**地域交流の促進に寄与する機能や観光機能を含む公共機能**は、主に、対象地西側に位置する**参道に面して配置**することを想定しています。



民間施設との関係性

本事業では、同一敷地内に民間施設を配置するため、**民間施設と公共施設が相互に機能し合うよう、動線や配置の調整**を行います。特に、居住機能については、公共機能とは別の出入口を設けて**マンション居住者と公共施設利用者の動線を分ける**ことで、静穏性やプライバシーに配慮した居住環境を確保します。

公共機能に関する各階配置イメージ

本計画では、新施設における**公共施設部分を3階建て**とする場合に、各階における公共機能の配置は以下のように想定します。ただし、**具体的な諸室配置は設計段階で決定**することとします。

【配置イメージ】

3F	ホール(ステージ付)	会議室
2F	保育・子育て支援スペース	和室・講習室
1F	小正市民センター 更生保護サポートセンター 公共ロビー 展示スペース	観光案内所 観光協会事務所 防災倉庫

【階層別機能配置の考え方】

3階	<ul style="list-style-type: none"> 市民が日常的に使用でき、予約をして利用する会議室や、特定の目的をもって訪れるホールを想定します。 ホールは、大空間を確保するため、最上階への配置を想定します。
2階	<ul style="list-style-type: none"> 市民が日常的に使用できる和室や講習室の配置を想定します。 保育・子育て支援スペースは、地域交流を促し活気づく1階ではなく、落ち着いた環境を確立するために2階への配置を想定します。
1階	<ul style="list-style-type: none"> 主に地域交流機能を配置し、市民が気軽に集える空間を想定します。 情報発信媒体が市民の目に触れる機会を創出するため、展示スペースを公共ロビーに隣接する配置を想定します。 来訪者に対して観光案内できるよう、初めて訪れる方でも迷わず立ち寄りやすい1階に、案内機能を含む観光協会事務局の配置を想定します。 災害時に外部への資材の持ち出しを容易にするため、防災倉庫は1階への配置を想定します。